

## 景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成28年11月)

### ～現状、先行きともにDIは上昇も、今後の米国情勢読めず不透明～

- 景気ウォッチャー調査・11月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が2か月連続で上昇、先行き判断も2か月ぶりの上昇となった。(なお平成28年10月調査より、内閣府方針に基づき各指数を原数値から季節調整値に変更)
- 足元の状況は、依然として消費者には強い節約志向がみられるものの、11月に入って、それまでの残暑から一転して例年を下回る寒さとなり、冬物商材の販売に追い風が吹く形となった。一方、インバウンドについては、引き続き好不調が入り混じる状況であるが、このところは動静そのものへの言及が減ってきている。
- 米国の大統領選以降の円安・株高の影響については、百貨店などの一部で少しみられるものの、まだ目立った影響は出ていないようである。
- 一方、先行きについては、今冬は寒くなるとの予報から、百貨店を中心とした季節商品の売行きに期待が集まっているほか、円安・株高による好影響を予想する声が多い。ただし、米国の次期大統領がもたらす先行きの不透明感は非常に強く、トータルとしては先が読めないといった声が多くみられる。

#### 「気温の低下」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連          変わらない	やや良くなっている	百貨店(服飾品担当)	・気温の低下により、衣料品関連が11月に入ってようやく前年を上回る形となった。また、ネックウェアや帽子、靴などのアイテムに関しても、前年比で103%と回復し、3か月連続の前年割れは避けられた。化粧品やアクセサリなどのアイテムも引き続き好調を維持しており、クリスマス商戦にこの状況が維持できれば、秋の落ち込みをややかカバーできる形になる。
		百貨店(販売推進担当)	・来客数は確実に伸びてきている。気温の低下や、これから寒くなるという予測により、冬物商品を求める客の数が増えている。
		百貨店(営業企画)	・婦人服を中心に、防寒アイテムの動きが好転してきた。強い節約志向がいったん底入れしたように感じる。
		スーパー(店長)	・気温の低下により、食品以外を中心に、前月の大幅ダウンからやや持ち直した形となった。競合の激しい地域なので、食品はチラシを打ち続けて、何とか昨年の売上を維持している。
	変わらない	一般小売店[衣服](経営者)	・冬物衣料の動きが出てきた。ただし、高額な厚手の製品の動きが悪く、消費者は慎重に買物をしている印象がある。
		百貨店(売場主任)	・今月の前半は気温の低下に伴い、アパレルや防寒商品の動きが良かったものの、中盤から後半にかけて失速し、目標は達成できない見込みである。客は実用的な商品は購入するものの、必要以上には購入しない。また、客の財布のひもは一層固くなっており、購買単価にも慎重さがみられる。数量、単価共に厳しい状況にある。
		百貨店(売場主任)	・気温の低下に伴い、今月は防寒衣料品が好調である。一方、お歳暮の早期受注は前年を上回る勢いであるが、前倒し傾向に終わる可能性が高い。食料品や雑貨の売上は相変わらず低迷している。
		百貨店(営業担当)	・気温の低下により、防寒商材に動きがあるものの、必要以上に買物をしない節約志向が感じられる。また、株高ではあるものの、高額商品の動きが伸び悩んでいる。
		百貨店(商品担当)	・月初の気温が低めで、婦人服を中心にファッション関連が比較的好調に推移したものの、中盤からは天気が崩れ、気温も上昇したため、減速気味である。一方、食品は順調で安定している。さらに、インバウンド売上も厳しいものの、化粧品は依然として好調である。時期や部門による好不調があるため、全体的にはあまり変わらない。
		百貨店(販促担当)	・冷え込みを感じるこの時期らしい気候になり、上旬は防寒系アイテムに動きが出たものの、後半は失速している。非常にシビアな消費傾向が続き、客単価が低下しているほか、高額品の動きも落ちており、苦戦している。
百貨店(サービス担当)	・これまでの傾向に変化はなく、前年実績の確保に苦戦している。寒気が早く到来したことで、婦人服は全体的に好調となっているが、お歳暮のギフト商戦は苦戦している。ただし、入店客数だけは前年実績を上回っている。		

家計動向関連	変わらない	百貨店（外商担当）	・宝飾品や海外ブランド品、高級時計などは売上が多少回復してきているが、依然として婦人服の売上は低迷している。気温もあまり下がらず、冬物商品が苦戦している。
		百貨店（マネージャー）	・直近の動きでは、気温の低下やポイントアップ優待などのカード施策が、売上増に直結していない。引き続き、客の動きがつかみにくい状況が続いている。
		百貨店（マネージャー）	・11月は気温が低下し、冬物衣料の売行きが回復した。ただし、ブランドによる好不調の差が大きく、中価格帯の衣料品は堅調である一方、高価格帯のブランドが大きくマイナスとなっている。買上点数の減少は続いているが、上昇していた客単価がマイナスに転じている。最近の円安、株高傾向による消費の改善はみられず、消費の引き締め傾向が顕著に感じられる。
		スーパー（企画担当）	・ここへきて気温も下がってきたが、今月中旬までは暖かい日が続く、前年比では冬物関連商品の動きが良くなかった。逆に飲料関連は良かったが、冬物商品のマイナスをカバーするまでには至っていない。
		スーパー（経理担当）	・野菜の高騰や気温の低下などの追い風もあり、売上は一定の水準を保っている。しかし、消費者のマインドは、ブラックフライデーなどの仕掛けが一部では有効であるように、低価格指向が非常に強い。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・11月中旬から下旬にかけて、日によっては寒暖の差がかなり大きくなったことから、インフルエンザが流行している。それらの影響で、感冒薬やカイロ、ハンドクリームなどの動きが良くなっている。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・朝の気温は低い、昼には上がるため、購買がホット商品になかなか移行しない。
		都市型ホテル（客室担当）	・秋の行楽シーズンであるが、11月に入って急に寒くなったことが影響しているのか、2名以上の利用客が昨年実績を下回っており、ビジネス客と訪日外国人でカバーしている状態である。
なっている	やや悪くなる	衣料品専門店（経営者）	・今月は少し寒い日もあったが、暖かい日も多かったため、来客数が少なかった。暖かい日があると売上が減少し、結果として昨年よりも3割ほど悪化している。
		一般レストラン（経営者）	・大型店舗よりも、常連客が中心の小型店舗の方が多少にぎわっており、全体的に外食作業は下向きと感じる。急に寒さが増し、体調を崩している人が増えていることも、不調要因の一つと考えられるが、経済的に不安定な状況となっている。
		家電量販店（店員）	・この夏は猛暑で、早い時期から暑くなったため、特にエアコンの販売台数が増えた。ただし、夏以降はなかなか寒くならなかったため、現在はあまり季節商品が動かず、厳しい状態である。
企業動向関連	なっている	その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・今月に入って気温が一気に低下したこともあり、駅構内でも冬物商材が動き始めた。また、インバウンド需要も前月に比べて大きく伸びており、特に土産物店には大きな動きがみられる。
		食料品製造業（営業担当）	・11月中旬からの気温の低下により、飲料水の売上が少しずつ減っている。

「米国次期大統領、円安・株高」関連のコメント（先行き判断）

家計動向関連	やや良くなる	一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・クリスマスや年末年始にかけてのイベント需要が見込まれる。円安によって海外からの需要も増える。
		スーパー（経理担当）	・株高がいつまで続くのか、賃上げが実現するのかなど、消費に大きな影響を与える要素の先が読めないため、売上が上向き予想は立てにくい。また、鳥インフルエンザの流行や年金法案など、目先、将来共に不安をおおるような空気が広がると、消費者マインドは低下する恐れがある。
		乗用車販売店（販売担当）	・米国の次期大統領が決まり、株価が落ちると思われたが、今は上がってきている。このまま景気が回復することを望みたい。
		都市型ホテル（管理担当）	・円安傾向により、海外からの訪日客の増加に期待したい。
	変わらない	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・寒さの程度にもよるが、冬場だからといって、これまでのように衣料品が売れるという期待はかなり減った。年が明ければ、米国も次期大統領に代わるが、世界経済にどのような影響が出るのか分からない。来店する消費者の口からも、米国の次期大統領の話がたまに出ることから、多かれ少なかれ、これが1つの起爆剤となって、景気が上向いていくことを期待していると感じる。
		百貨店（売場主任）	・前年のインバウンドや高額商品の好調から、今年は一転して厳しくなっている。一般消費者の消費もコト消費の比率が高くなり、特にファッション関連は改善に向かう要素に欠ける。直近は株高や円安などの好条件もあるが、長続きするかは不透明であり、気温低下による防寒アイテムの売上増に期待するのみである。
		百貨店（売場主任）	・米国の次期大統領の影響で株価が上がれば、高額商品の動きが活発化する可能性もあるが、外国人観光客の購買単価の下落には追い付かない。外国人観光客による化粧品の売上シェアは、今では50%にまで上がっている。
		百貨店（営業担当）	・円安、株高などにより、一部では消費の回復が予想されるが、ボリュームの大きい中間所得層の節約志向は継続する。
百貨店（商品担当）	・年金見直し法案や、米国の大統領選、韓国大統領の責任問題などによる、日本経済への影響が懸念される。消費は現状と大きく変わらず、一進一退で推移する。		

家計動向関連	変わらない	百貨店（営業企画）	・米国の大統領選は意外な結果となったが、市場は現時点で楽観的である。ひとまず明るいムードとなっているが、次期大統領が来年に着任し、具体的な政策がみえてくるまでは評価は定まらない。本場に保護主義に傾けば、世界経済の萎縮や新興国のデフォルトなどの不安が出てくる。
		百貨店（外商担当）	・米国の大統領選が終わり、その影響で当面は日本株の上昇が続くと思われるが、今後の国際情勢がどうなるか分からないため、株価も不安定となる。富裕層の高額受注も、上向くかどうかは読めない状況である。
		百貨店（マネージャー）	・米国の大統領選が終わったが、選挙前に想定されたリスクとは異なり、米国市場では変化に対する前向きな動きが感じられる。ただし、当面は様々な方面で慎重な姿勢が続くことが予想され、富裕層をはじめ、消費が大きく動く要素はあまり感じられない。
		スーパー（経営者）	・年明けは、農産物を中心に相場の低下が予想される。また、正月休暇も昨年と同様に3日間に限られ、際立ったハレの日消費の計画が立てられない。米国の次期大統領や韓国の動向などで株価や景気動向がどう変わるのかも分からず、消費者の節約マインドは続くと思われている。
		スーパー（店長）	・年末年始関連の販売は年々減少しており、今年も期待薄である。また、昨今の世界情勢の変化も消費者心理に良い影響を与えていない。円安の進行による景気回復に期待しているが、それが現場レベルで実感できるのはまだ先になる。
		観光型旅館（経営者）	・米国の次期大統領効果に期待している。米国の景気に影響され、国内需要が伸びることが期待される。
		観光型旅館（管理担当）	・米国の大統領選後、一時的に株価が上昇しているが、大きな反動があると思うので、逆に悪くなる可能性も考えられる。最大限に良い方向で予測しても、現状から横ばいである。
		都市型ホテル（支配人）	・来年の米国の次期大統領就任までは変わらないと思う。相変わらず米国の景気次第である。
		旅行代理店（支店長）	・米国の次期大統領の正式就任後の経済情勢が、特に高齢者層の可処分所得に影響を及ぼす。現状、客との会話では、落ち着くまで様子を見ろといった雰囲気がある。
		ゴルフ場（支配人）	・米国などの動きが不透明である。
その他住宅【情報誌】（編集者）	・現状のまま円相場が推移し、株高のトレンドが実感できれば、消費マインドの更なるアップが期待できるが、今のところは変わらないと予想している。		
やや悪くなる	百貨店（マネージャー）	・米国の大統領選の結果や、健康保険料の改定など、国内外の環境には大きく変化しそうな要素が多いものの、好転につながりそうな物はない。そのため、消費意欲の減退は避けられず、厳しい状況が更に続く。	
	家電量販店（企画担当）	・米国の次期大統領の政策に大きく左右されると共に、韓国大統領の辞任表明により、先行き不安が高まり、全く予測できない状況である。また、国内でも年金法案が衆議院で強行採決されたが、先行き不安などから、受給者の買い控えが予想される。また、将来の受給者も消費を抑え、貯蓄に回すことになる。	
	都市型ホテル（客室担当）	・米国の次期大統領が決まったが、これからの世界情勢がどのように変わるかが不透明過ぎる。	
企業動向関連	悪くなる	衣料品専門店（経営者）	・米国の大統領選の結果に伴う、TPP離脱などの悲観的な報道が、消費者の購買意欲を低下させ、必要以外の支出を抑えている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・12～2月納期の大口受注については、不調の国内取引では珍しい案件である。円安傾向で海外取引にも大きなプラスとなるため、短期的には確実に良くなる一方、その先は見通せない。
	良くなる	化学工業（管理担当）	・米国の次期大統領の政策については不透明である。ただし、就任前の株高、円安の動きが今後も続くと思われている。
		食料品製造業（従業員）	・為替の影響もこの時期辺りから徐々に出てくると思う。当社も原料などを輸入しているため、米国経済の行方を変え心配している。
	変わらない	食料品製造業（経理担当）	・米国の次期大統領就任の影響が気になる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・米国の大統領が代わり、どのような方向に進むのかを見定めたい。
		金融業（営業担当）	・中小企業の動向は、大手企業に左右されて大きく変化する。大手企業もまた、米国の動向を注視しながらの業況となることから、中小企業への波及は遅くなり、景気回復も遅れる見込みである。
		金融業【投資運用業】（代表）	・今の株高、円安は、米国の次期大統領による一時的な現象である。日本経済の実力がいつ発揮されるのかは不透明である。
		不動産業（営業担当）	・円安によって世界的に株価が上がってきているが、事務所や住宅など、神戸の不動産市場は連動していない。神戸から事業所が撤退していることで、賃料の低下、空室率の悪化が続いている。
		経営コンサルタント	・不確定要素が非常に多くなった。天候や災害、米国の大統領選の結果、国内政治、年金制度の改定など、やや厳しい状況となっている。
その他非製造業【機械器具卸】（経営者）		・ここ数日も円安傾向が進んでいる。このまま推移すると良くなるが、現状は変わらない。	
その他非製造業【電気業】（営業担当）		・米国の次期大統領による旋風で円安、株高となっているが、先行きは不透明である。	
やや悪くなる	広告代理店（営業担当）	・更に円安が進めば、利益調整で広告出稿を控える広告主が出てきそうである。	
	やや良くなる	新聞社【求人広告】（管理担当）	・米国の次期大統領が打ち出している、大型減税やインフラ投資、12月の利上げ観測などで、急速に円安が進み、株価も上昇している。この事実、少なくとも景気が上向いていることを示している。ただし、実現するかどうかは、ふたを開けてみなければ分からず、彼が大統領に就任するまでの短期的な判断としかいえない。
民間職業紹介機関（営業担当）		・米国の次期大統領については、先行きが不透明な点も多いが、共和党政権ということもあって円安の加速で企業業績が良くなり、人材採用にもプラスに働くと考える。	
学校【大学】（就職担当）		・米国の次期大統領が起こした、株高などの思わぬ現象に驚きつつも、景気回復を期待している。	
変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・米国の政権交代により、景気の先行きが読みづらく、良くなることも悪くなることもいえない。	

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 14			15							16															
		月 10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
現状判断	近畿	51.0	49.6	49.3	50.0	53.1	50.1	50.9	51.1	52.4	50.8	51.5	51.4	53.4	50.7	51.2	49.5	46.0	39.9	40.2	41.3	39.1	45.3	45.2	44.5	47.6	53.1
	(全国)	47.5	45.6	46.9	47.3	49.7	48.5	49.8	50.9	49.8	49.7	50.0	48.7	51.4	50.3	50.5	48.6	44.4	41.3	39.7	40.8	39.8	43.2	45.7	46.3	49.3	52.5
先行き判断	近畿	50.3	49.6	49.3	50.8	54.0	54.3	54.9	53.3	53.6	53.3	49.0	50.6	51.4	49.8	49.2	47.3	47.0	45.6	45.8	46.3	40.6	46.5	48.5	49.8	49.2	52.1
	(全国)	49.2	48.0	49.4	50.2	51.7	51.7	50.9	51.3	51.4	51.4	49.7	50.5	51.7	52.1	51.0	49.8	46.1	45.1	42.3	44.0	39.4	46.5	48.8	49.9	51.4	53.0

※季節調整値